

04 エクステンションセンターによる講演

合格するために何をすべきか 専修大学公務員試験講座はこうなっている

専修大学エクステンションセンター事務部公務員試験講座担当講師 **朱 武英**

公務員になるには、どのような準備が必要か。専大の専任公務員試験講座担当講師が、公務員試験の最新情報、専大の公務員試験講座の強みを語る。



公務員試験の概要

まず採用試験概要についてご説明いたします。〈資料1〉をご覧ください。行政職というのは、国家公務員ですとか、国税専門官、労働基準監督官、裁判所の書記官といったような専門職。それから市役所職員、あるいは県庁職員などです。そして、公安職は警察官・消防官です。

それぞれの試験内容を見ていきましょう。行政職は1次試験で専門択一試験があります。こちらは憲法・民法・行政法、経済原論や政治学、社会学、行政学といった大学の専門課程で学習する科目。そして教養択一試験があります。数的処理、文章理解、社会、人文、自然科学。これらは、中学高校で学習する、英語、数学、国語、理科、社会です。

そして、専門論文というものが出題されるところもあり、東京近郊ですと東京都庁で出題されます。専門試験の内容を、専門論文という形で問われます。あとは教養作文といったものもありますが、これは少子高齢化の問題ですとか、あるいはオリンピックを契機にして地域をどう活性化させるかといったような意見を学生に書かせ

〈資料1〉採用試験概要

【行政職】	1次試験 専門択一試験（憲法・民法・行政法・経済原論・政治学・社会学・行政学など） 教養択一試験（数的処理・文章理解〈日本文・英文〉・社会、人文、自然科学） 教養作文（時事問題についての見解を問う）＋専門論文（試験種によって）
	2次試験 人物試験（個別面接・集団面接・集団討論・グループワーク）
【公安職】 警察官・消防官	1次試験 教養択一試験（数的処理・文章理解〈日本文・英文〉・社会、人文、自然科学） 教養作文（時事問題についての見解を問う）
	2次試験 人物試験（個別面接）＋体力検査

るもので、1時間から1時間半ぐらいでの試験になります。そして2次試験は人物試験です。個別面接では、面接官が大体3人ぐらいで、学生が1人という形になります。集団面接では面接官が3人に対して学生が6、7人ぐらいです。あとは集団討論、グループワークといった形式もあります。民間と同様に、集団の中でどう振る舞うかを見られるというのは、最近の流れでもあります。

一方、公安職を見てみましょう。こちらは1次試験で専門択一試験がなく、教養択一試験だけになります。さらに、教養作文です。内容は、時事問題についての見解を問うもののほか、警察官や消防官の場合はチームで仕事をしますので、学生時代にチームで何かをした経験やスポーツ活動、リーダーとしてみんなを引っ張った経験などを書かせられます。そして、2次試験の人物試験は個別面接です。さらに、警察官・消防官を志望されている方は、体力試験があります。あまりひよろひよろですと、それぞれ消防学校ですとか警察学校に入って大丈夫？と思われる。面接で、「キミ体力的に大丈夫？」と冗談でなく本当に聞かれます。

公務員試験の倍率の実際

〈資料2〉国家一般職採用試験（関東甲信越地区行政職）における倍率を見てみましょう。平成28年度は申込者数12,548人に対し、1次合格者の数は2,969人で、大体4分の1程度になっています。1次合格者2,969人から最終合格者は1,985人ですから、大体3分の2ぐらいです。1次に通れば、なんとかなるとも言えます。しかし、国家一般職の場合は、合格後に官庁訪問をして、そこで内定をいただかなければいけないので、合格イコール採

〈資料2〉国家一般職採用試験・選考実施状況（関東甲信越地区行政職のみ）

	申込者数	1次合格者数	最終合格者数	倍率
H29	12,200 (4,422)	2,608 (828)	1,724 (637)	7.0
H28	12,548 (4,387)	2,969 (923)	1,985 (710)	6.3
H27	12,233 (4,384)	2,723 (897)	1,805 (695)	6.7

（カッコ内は女性受験者の数で内数）

用ということではありません。

倍率は大体6倍前後。ただ、これは申込者数で、申込書を出したけど実際には受験しない学生もいます。試験会場には意外と空席もあります。ですから実質的には4倍前後というふうに考えていただいてもよろしいかと思います。

〈資料3〉をご覧ください。専修大学の公務員試験講座の受講生で一番希望者が多い東京都特別区の倍率は5～7倍で、かなり高いと思われるかもしれませんが、今年は応募者数15,118名に対し実際の受験者は12,683人でした。これは民間企業を受けている学生が、受験の願書だけ出しておいて、受けに来ない。あるいは一応、東京都の特別区と東京都庁の両方とも受験願書を出しておいて、どちらか選んで受けているということです。

最近の公務員試験の採用の傾向では、1次試験というのは足切りです。大学受験で言うところのセンター試験みたいなものだと考えていただきたい。そこをクリアした人間を、あとは面接で適性があるか判断していきます。

同じことは警察官・消防官にも言えます。やはり1次試験で比較的多くの人を通した上で、2次で絞り込む傾向がはっきりしています。

〈資料3〉東京都特別区採用試験・選考実施状況

	採用数	応募者数→実受験者数	1次合格者数	2次合格者数	最終合格者数	倍率
H29	980	15,118 → 12,683 (5,111) (4,395)	4,219 (1,425)	3,599 (1,244)	2,176 (941)	5.8
H28	940	15,574 → 11,795 (5,175) (3,927)	3,433 (1,152)	2,909 (1,005)	1,781 (771)	6.6
H27	930	123,534 → 9,712 (4,288) (3,322)	3,263 (1,066)	2,972 (961)	1,739 (733)	5.6

（カッコ内は女性受験者の数で内数）

専大生のために設計された講座

専修大学の学生は1次試験に自信を持っていない学生が多いです。講座ではまずここを強化するのが一つの目標になります。

公務員試験講座は、基本的に2年生、3年生の2年間をかけて学習を進めていく形を取っています。行政職を受験する学生には、専門択一試験の中でも出題数の多い憲法・民法・行政法・経済原論といった科目を2年生の時点からしっかりとやってもらいます。そして、教養の択一試験の科目の中では、数的処理。これが全体の3分の1あるいは4割ぐらい出題がありますので、ここをしっかりと勉強してもらうことによって、確実に1次試験に通る実力を付けてもらいます。

これは公安職の場合も変わりはありません。まず数的処理をしっかりと得点できるように講座を組んでいます。教えている立場からはっきり申し上げます。専大生はポテンシャルがあります。普通にやれば受かります。ところが、自分で自信を持っていないので、駄目ではないかと勝手に思ってしまう。だから、そうならないようにパッ

クアップをしていくのが公務員試験講座の内容ということになります。

私は以前、予備校で教えていたとき、日東駒専、GMARCHといった大学の学内講座を担当したことがあります。最終的に専修大学の専任講師を引き受ける決心をした理由は何かと言うと、大学側の熱意です。ほかの大学では、予備校で講師を派遣したら、あとは勝手に授業をやってとすべて予備校任せでした。

それが専修では、うちの学生はどういう特徴を持っていて、こういうふうによってくれと伝えてくれるわけです。それは専修大学専任でやらせていただいている現在でも変わりません。エクステンションセンターの職員の方々が、年度ごとに結果をきちんと検証し、どうすれば次により良い結果を得られるか、議論を戦わせながら内容を決めています。

その結果、生田では1年次に公務員入門講座、2年次で実戦力養成講座、3年次で合格力養成講座を設けています。神田校舎のほうは1年次で憲民刑入門講座、2年次で基礎力充実講座、3年次で実力完成講座というふうに、実力を積み上げていく講座を作っています。

私も学生とほぼ毎日顔を突き合わせており、何かあれば相談もできますし、私に相談しづらければエクステンションセンターでも相談を受けています。学生はきちんと自分のどこがまずいかというのを他人から指摘してもらいながら、結果を出すことができます。

日頃から意識すべきこと

ここで、ご父母・保護者の方々をお願いしておきたいことがあります。2次試験の面接の評価のウエイトが非常に大きいというのは先ほど申しました。大学時代に学業でもアルバイトでも、ボランティア活動でも構いません。学生が何をやって、その中でどういうことを得たかということを中心にここで語れるように、日常生活を意識してもらいたいということです。

我々も教室で学生に伝えてはいますが、聞いているだけで右から左に流れてしまう部分があります。ぜひ、ご父母・保護者さまの方でもお子さんの背中を押していただけたいと思います。

最後にお知らせがあります。行政職の場合は2、3年次の2年間かけて学んでいただきますが、警察官・消防官、それから市役所試験の教養型の対策講座の場合は、3年生の秋以降から準備をいただいても、まだ間に合います。

ご子女が1年生の場合であれば2年生から公務員試験講座を受講するという形で考えていただければと思います。3年生の場合に警察官・消防官を考えているのであれば、3年生の秋から学内で講座があります。

以上、このような形で社会に出るまで学生をサポートしていくというのが専修大学の公務員試験講座です。ご清聴ありがとうございました。